

# サーキットは別世界

## 延岡出身、期待のドライバー 笠江 友和選手

今春

FJ  
1600  
デビュー

「コーナーを高速で曲がるのはみんな怖い。それを誰よりも我慢して抜いた時。それがたまらない」。延岡市貝の畑町出身のレーシングドライバー笠江友和選手(26)はZAP SPEED所属のFJ所属。4月から開催するフォーミュラ・ジャパン(FJ)1600シリーズ(東北、もてぎシリーズ)の公式戦デビューを前に目を輝かせる。FJ参戦を控える若手ドライバーではトップレベルに位置し、同シリーズの優勝、上位階級への飛躍が期待される成長株だ。

笠江選手は上南方可、南方可、延岡西高校、日本文庫大学工学部工学科を卒業後、平成12年4月に現チームのオーティションに合格しレーサーに。

父親が自動車整備士で、幼いころから車に親しみ、興味を抱いていた。テレビで放映されるF1クラッシュリを必死にみるように。また、極限まで性能を高めたマシンで技術を競うレース「10分もレーサーになりたい」。あこがれは膨らんでいった。

高校生になって、レーサーになる方法を調べた。お金がかかることが分かった。親に迷惑をかけたくない。就職してから挑戦を決心した。

大学時代もアルバイトをしながらの生活。卒業後、卒業までに目標を達成した。

### 目指すは国内最高峰 フォーミュラ・ニッポン

なかったが、ZAP SPEEDのチームオーティションがあるのを知った。オーティションに受ければチームマシンを借りて練習で

きるため、手元の資金で間に合う。

「ZAP SPEED」(内閣府監督は毎年FJチャンピオンに輝いている

FJ最強チームで、オーティション合格自体困難」とされている。技術はもろろん、厳しい指示に耐え抜く精神力、レーサーとしての覚悟を試されるプロ志向のチームだ。

笠江選手は、このオーティションに1発合格。長野県諏訪市に住み、機械系エンジニアとして働きながら、月2回のペースで栃木県茂木町や仙台市のサーキットに通って腕を磨く。

笠江選手は、このオーティションに1発合格。長野県諏訪市に住み、機械系エンジニアとして働きながら、月2回のペースで栃木県茂木町や仙台市のサーキットに通って腕を磨く。

は「地道に練習を重ねながら、マシンとタイムを伸ばす

している。今では十分にトップを争える位置にきている。決して派手ではないが、実力と勝負をさせてきたタイムに評価。

ただ、生活面、精神面については、まだまだ。酒も飲まず、非常な集中力が必要な人が居る部分がある。そうして、勝負の世界で戦う以上、厳しさを育てていきたいと選手。

FJ東北、もてぎ同シリーズとも1日ずつに客も戦を開戦。笠江選手は、全レースで上位入賞を果たし、シリーズチャンピオンになってみせます。エリート。志はあくまでも、より高いレベルなF1、F2、国内最高峰のフォーミュラ・ニッポンを目標とする切実だ。

